

**(二宮議員)**

令和3年度、小倉南区内において私が知りえた2人の青年がバイクを運転中、事故によりお亡くなりになりました。事故の状況は正確には分かりませんが1人はスリップによる事故。1人は右折時に対向車との衝突による事故だったようです。

時を同じくして小倉南区から平尾台を超えて行橋に向かっていたひとりの方から連絡があり、道路の沿線に上りと下りの4カ所に花が手向けられている。その方の話ではバイクによる事故の様だとの事でした。

バイクによる事故と四輪乗用車の事故を比較した場合、バイクによる事故は死亡に至る重大事故の可能性は大きくなると言わざるを得ませんが、バイクには車にない魅力が有り、車とは全く違う爽快感を感じるなど、最近、バイクの人気は再び上向いているようです。そこで、特に若いライダーがより安全にバイクを利用してもらうため何点か質問します。

警察庁交通局が発表した令和元年の交通死亡事故の発生状況報告によると、全国で原付車を含む乗車中の死亡者数は510人で交通事故死亡者全体の15.9%にあたるそうですが、圧倒的に車両台数ではバイクの方が少なく、それなのに死者数の構成率は、四輪:1,083人(33.7%)、二輪:510人(15.9%)と車の約2分の1という高さです。

そこで今年の福岡県下の四輪自動車乗車中とバイク乗車中の交通事故死亡者の状況は如何なのかをお伺いします。



【警察本部総務部長】

本年 8 月末における交通事故の死者数は 46 人ではありますが、そのうち四輪自動車乗車中は 13 人で、全体の 28.3%、バイク乗車中は 10 人でありまして、全体の 21.7%となっております。

(二宮議員)

バイク乗車中の死者数は全体の 21.7%、四輪自動車乗車中は 28.3%との回答を頂きました。一見、四輪自動車の方が危険と考える人がいるかもしれませんが、バイクの保有台数は自動車保有台数と比較すれば、20 分の 1 程度ではないかと思えます。でありますから、この数字はバイク事故における死亡者数の割合がいかに多いかを端的に物語っていると思えます。

そこで、バイクでの死亡事故の類型についてお聞きします。

【警察本部総務部長】

本年 8 月末におけるバイク乗車中の交通死亡事故は 10 件で、その類型としては、単独事故が最も多く 5 件、次いで追突事故が 2 件、直進中に右折車と衝突する事故が 2 件、正面衝突が 1 件となっております。

(二宮議員)

次に、バイク乗車中の死亡事故の致命傷部位はどうなっていますか。

【警察本部総務部長】

亡くなられた 10 人の致命傷となった部位の内訳ではありますが、頭部が最も多く 4 人、次いで胸部が 3 人となっております。

(二宮議員)

バイク利用者のための交通安全対策について福岡県警としてどのようなことを行っているのかお聞きします。

【警察本部総務部長】

県警察におきましては、交通事故抑止のために四輪自動車と併せてバイクに対する速度超過などの指導取締りを実施しております。

そのほか、交通安全キャンペーン、各種広報媒体を活用して、頭部や胸部を守るヘルメットやプロテクターの有効性等について周知を図るとともに、学校

や企業を対象に、バイクの安全利用を目的とした実技講習を実施しているところでもあります。

(二宮議員)

胸部プロテクターに関しては、使用を意識している人が少ないのではないのでしょうか。

令和元年における警視庁のプロテクター着用率に関する報告によりますと、着用率はわずか 8.4%という低さです。

バイク利用者約 3,100 人への調査で、プロテクターをしない理由は「面倒」(約 41%)が最も多く、「値段が高い」(約 26%)、「プロテクターを知らない」(約 15%)と続きます。

調べてみますと値段が高いという理由がありましたが、比較的安価なプロテクターも販売されています。命を守るためには胸部プロテクターの着用が必要だと思います。

要望ですがフルフェイスヘルメットの装着、胸部プロテクターの着用は習慣化をなお一層進めて頂きたいと思います。

最後にバイク乗車中の交通死亡事故防止について、決意をお聞かせください。

【警察本部総務部長】

県警察といたしましては、今後とも多くのライダーの方に安全にバイクを利用していただくため、交通安全教育や広報啓発活動を推進してまいります。

加えまして、飲酒運転をはじめ、交通死亡事故につながる悪質・危険な違反について徹底した取締りを実施してまいります。